

令和5年度 愛知県立時習館高等学校 学校評価結果

本年度の 重点目標	挑む時習館 高き志と果敢なる挑戦		
担当	重点目標	具体的方策	総合評価
総務部	(1)生徒、保護者の防災意識をより高める (2)災害時等における教職員の初動体制を明確にする。 (3)『時習館高校安心メール』の導入・普及がスムーズに行われる。	(1)生徒による「防災・減災だより」の作成等、生徒が情報を発信し防災意識の向上を図る。 (2)教職員が学校安全マニュアルを折に触れて読むよう、職員会議などの場で声をかける。防災訓練時に速やかに動けるよう、理解を呼びかける。 (3)「時習館高校安心メール」の双方向化実現により、登録率の向上及び活用方法の研究を進める。	11月16日(木)実施の職員防災研修は、6月の近年未曾有の水害が発生したことを教訓として生かすべく、対応に当たった専門家を講師に招いて実施された。防災に対する心構えを、まずは教職員から高めていくことを目的としたものであり、身の引き締まるものとなった。年明け早々の能登半島地震の件もあるため、今後はより現実味をもって防災体制づくりに取り組む必要がある。 「デンタツくん」の運用が始まり、欠席連絡や学校からのお知らせなど、通常使用の場においては、ますますの利便性を発揮している。ただ、緊急時の通信環境に一抹の不安がある。
教務部	(1)時習館高校の未来を見据え、本校にふさわしい新教育課程の実施と改善を図る。 (2)教職員が一致協力して生徒の指導にあたるように、継続して内規の整備にあたる。	(1)昨年度から始まった教育課程について、実施した実情とカリキュラムを照らし合わせ、次年度以降に反映させる。また、実施して分かった改善点や工夫する点などをデータとして蓄積する。 (2)近年の状況に適合した内容となるよう、内規を検証し、整備する。	来年度の教育課程については、教科からの意見を集約することで、よりよい教育課程を編成することができた。令和8年度からの中高一貫校への視察などを通して情報収集を行い、本校にふさわしい教育課程について議論を深められた。内規についても、必要な整備を行うことができた。
生徒部	(1)品位ある身だしなみを心掛け、責任ある行動がとれる生徒を育成する。 (2)遅刻指数1%未満を目指す。 (3)交通安全や交通マナーの遵守を徹底する。 (4)教育相談の充実を図り、不登校生徒数を1%未満に抑える。 (5)学校行事・部活動・ボランティア活動などに積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	(1)身だしなみ指導、立ち番指導などの充実と情報モラルの実践を促すことで、生徒の意識の向上を図る。 (2)担任との連絡を密に取り、生徒の精神状態や遅刻の要因を考察する。また、今年度より、毎学期で3回目・6回目・9回目の遅刻ごとに面談を行い、遅刻の多い生徒に対して支援し遅刻防止に努めていく。 (3)生徒への啓発活動を工夫し、命の大切さを理解させ、交通マナーを守らせる。 (4)H・SRT委員会や教育相談の充実を図り、いじめの未然防止や早期発見に努めるとともに、多様な問題を抱えている生徒への理解を深める。 (5)行事を運営する生徒への声かけ、部連会や激励会の開催、各種ボランティア事業の広報を通して生徒が積極的に参加できる土壌を整備する。	身だしなみについては、教職員の共通理解と一致団結のもと、どの学年の生徒も概ねきちんとした身なりで、落ち着いた学校生活を送ることができた。また保護者の評価も高く、制服の着こなしに関する家庭での理解と協力が得られていると考えられる。交通マナー遵守については、立番時の指導や校外での見回り指導により成果がみられた。特別活動においては、生徒会行事全般について参加意識の高さが見られた。
進路指導部	1年 自己を見つめて将来に対して高い志を持たせ、高い進路目標を築き上げさせる。 2年 高い進路目標を設定し、その希望を持続させ、意欲的に学習に取り組ませる。 3年 自分の進路希望を明確にさせ、最後まで挑戦する勇気を持たせる。	1年 一人一人の特性をつかみ、文理選択をはじめとした、将来の目標や希望を尊重した進路目標を主体的に設定させ、その実現に有効な志望学部・大学を決めさせる。 2年 進路行事(進路講演会、学部・学科説明会)や担任面接などを通して、高い進路目標を維持させる。 3年 学年会と連携して、志望校に挑戦し続けるよう指導する。日々の授業が強固な学習基盤となるように、進路講話や補講・学習会、大学別の説明会でやる気を喚起する。	全体的に進路に関する評価が二分しつつある傾向が見られる。特に進路情報に関してはその傾向が顕著である。これは受け取る側の意識の問題がかなり大きいと思われるが、今後情報をあまり積極的に受け取らない層にいかに対応するかが課題である。また、情報発信にも更なる工夫が必要である。正確な進路情報を的確に生徒に伝えることは進路指導において大変重要な要素である。進路指導部の情報発信力を今以上に強化する必要があると考える。
保健部	(1)健康・安全面に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事)の事故・怪我の減少を目指す。 (2)各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の自主的な活動の促進に努める。 (3)校内の環境衛生活動において、感染症の予防や環境衛生、美化・緑化活動を進めていく。	(1)健康・安全面に留意して学校管理下(授業・部活動・学校行事)の事故・怪我の減少を目指す。 (2)各委員会活動(保健・美化・緑化)の充実を目指し、生徒の自主的な活動の促進に努める。 (3)校内の環境衛生活動において、感染症の予防や環境衛生、美化・緑化活動を進めていく。	目標達成に向けて生徒・職員で協力し、日々計画・実行・反省・改善を図ってきた。今年度のアンケート結果や実績から考えると、一定の評価をいただいたものと感じる。今年度の反省・評価を踏まえ、学校管理下における生徒の健康や安全、環境美化・整備、健康の保持増進を学校全体で取り組みたい。また生徒・職員の心身の充実を図り、持続可能な学校環境となるように努めていきたい。

図書情報部	<p>(1)読書活動の推進を図る。 (2)生徒用1人1台タブレット端末の利用環境を整備する。</p>	<p>(1)図書館日より、図書館報「学而」、図書委員による企画等によって読書活動を推進する。 (2)タブレット端末の保守管理ルール作りと、利用促進のために教員のスキルアップ研修を行う。</p>	<p>昨年度同様に、図書館へは学習の場として来館する生徒が多い。これらの生徒に対しても読書に親しむように、来館者の目に触れる図書レイアウトや入り口での雑誌、ポスターの陳列は好評で効果があったと思われる。けれども、図書の貸出冊数の増加にはつながらない。 授業での情報機器の活用は徐々に進んでいるが、生徒用タブレット端末を活用する取り組みは十分であるとは言えない。今後は、情報活用講座などで生徒用タブレット端末を活用した授業展開の工夫などを紹介する必要がある。 本年度は学校ホームページを刷新して、情報発信力を高めた。同時に、先生方の協力により内容も随時更新したため、中学校の先生方には評価が高かったが、在校生の保護者による評価は昨年並みであった。保護者への情報発信を工夫する必要がある。</p>
探究推進部	<p>(1)SSH・AGH事業の普及のためのより良い広報活動の方法を検討、実践する。 (2)探究推進部の活動および諸事業の成果の報告をより具体化し、探究活動における「全職員指導体制」の充実を図る。</p>	<p>(1)ホームページの内容を整理・精選し、近隣の小・中・高等学校や保護者に向けてSSH・AGH事業の成果をより具体的に分かりやすく発信する。 (2)校内でSSH・AGH事業の実施報告をより分かりやすく発信する。また、全国のSSH校の取り組みを視察した成果を全職員に還元し、校内からの発信源を増やす一端とする。</p>	<p>アンケート結果分かるように、成果の普及に関して効率的に行える仕組みづくりが必要である。そのためには1つ1つの事業の見直しはやはり、より生徒のためになるような運営方法と時間のかけ方を考えなければならない。そのうえできちんとした成果の普及を行い、時習館高校のSSHを理解してもらいたい。Ⅳ期SSHとして来年度行うことができれば、Ⅲ期までの反省を生かし、より教員・生徒のためになるSSH事業としていきたい。そのために校内の協力・運営体制の見直しも必要であると感じる。</p>
1年学年会	<p>(1)時習館高校の生徒として規範となるような基本的な生活習慣、学習習慣を身に付けさせる。 (2)自らの将来について主体的に考え、目標に向かって切磋琢磨できる集団を育成する。</p>	<p>(1)心身の健康を維持することができる生活習慣と、基本的な学習習慣を確立させるよう支援する。 (2)生徒の主体性を尊重する指導姿勢を共有し、学習、学校行事、SSH、あいちリーダーズスクールなどの事業への参加を通じて自己の特性を見つめ、目標を定めることができるよう支援する。</p>	<p>アンケートからも読み取れるように学年全体として規範意識が高く、多くの生徒が良好な学校生活を送っており、他の調査結果からも学校生活全体への満足度は高い。しかし、学習面の不安や心身の不調を抱える生徒が増加傾向であるため、教員同士の情報交換を密にしながら、心身共に健康な学校生活を送ることができるよう支援したい。生徒が自らの特性を見つめ、適切な進路目標を設定できるよう支援を継続し、各自の目標に向かって自律的に行動できる集団を育成できるよう、努めていきたい。</p>
2年学年会	<p>(1)基本的な生活習慣の維持と各自の進路目標の達成につながる学習習慣の確立を図る。 (2)時習館高校の中心学年としての自覚を持ち、主体的に考え行動する習慣を身につけさせる。</p>	<p>(1)学校生活において、基本的な生活習慣を維持することで、心身の良好な健康状態を保ち、進路実現に向けた学習時間の確保と学習習慣の確立をさせるように支援する。 (2)学習のみならず、各種行事、SSH事業や生徒会に、主体的に取り組めるように支援する。</p>	<p>アンケート結果からも、文化祭や体育祭、また部活動に対する評価が高く、充実した学校生活を送っていることが読み取れる。進路に応じた類型や選択科目については、昨年度2年生と比べて全体のポイントが下がったものの、充実していると答えた高評価の割合を合わせたポイントは微増した。進路情報や将来について考える機会の提供についても、高評価の割合は微増か昨年度並みとなっており、進路実現に向けた校内の体制に上手く乗ってきていると考える。進路実現に向けた家庭学習時間の確保については、学年として今後も継続して指導していきたいと考える。</p>
3年学年会	<p>(1)最上級生としての自覚を持ち、模範的な生活態度を体現できるよう意識させるとともに、自分の将来について主体的に考え、自律して行動できるような生徒集団に育てる。 (2)高い進路目標を設定し、その実現のために最後まで粘り強く努力し、妥協せず挑戦することのできる生徒を育成する。</p>	<p>(1)学年団全体で育てたい生徒像や指導方針を共有し、生徒の主体性や自主性を伸ばし、自律して行動していけるように支援する。 (2)面接等を通じ、生徒の進路目標実現のための適切な助言及び指導を行う。また、高い進路目標を掲げ、その実現に向けた学習に、生徒が自律的かつ計画的に学習に取り組む能力を育成する。</p>	<p>昨年度より持ち上がりの教員が多く、こまめに面談や進路相談を繰り返してきたことで、生徒と教員の信頼関係が築けている。学校評価アンケートでも、「先生の考え方もって授業やその他の仕事を行っている」「進路の情報をよく伝えてくれる」等の項目で昨年度より評価が上がっている。学年としては、1年時より一貫して「自律・自考・自成」の指導目標のもと、自主的・主体的に行動できるように促しており、様々な状況の変化にも自分たちで考えて対処できるようになってきた。一方、体調やメンタルの不調により欠席しがちの生徒にも様々な配慮をし、寄り添うことができた。</p>